

# 01 | 循環型都市への移行

環境・経済の両面から持続可能な都市を実現するため、サーキュラーエコノミー（循環経済）の取組を進めます。サーキュラーエコノミーは、資源やエネルギーの循環利用により環境負荷を減らし、カーボンニュートラルの実現にも貢献します。また、新たなサービスや技術を生み出し、経済の活性化にもつながります。

横浜ならではの都市の特性を生かした「横浜らしいサーキュラーエコノミー」の取組を推進し、持続可能な循環型都市を目指すと共に、この取組をGREEN×EXPO 2027等を通じて世界に発信します。

## 現状及び将来見通し

### サーキュラーエコノミー(循環経済)とは

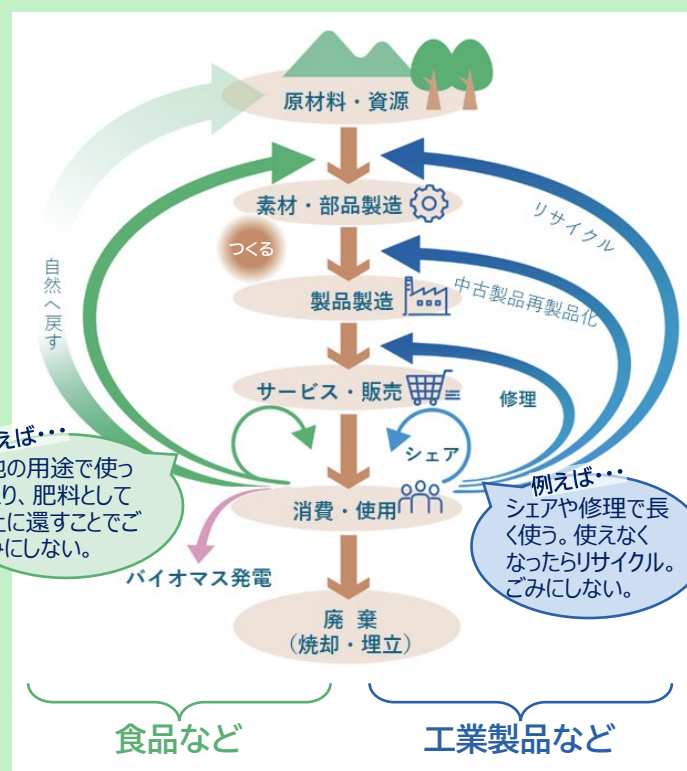
サーキュラーエコノミーは、従来の「資源採取→生産→消費→廃棄」という直線的な経済（リニアエコノミー）に対して、シェアや修理、リサイクルなどの取組を通じて資源を循環させ、新たな資源やエネルギーの投入を減少させていく経済モデルです。

気候変動や天然資源の枯渇、環境の汚染など、地球の持続可能性が世界的な問題となっています。かけがえのない地球環境を守るためにも、欧州をはじめ世界的な潮流となっているサーキュラーエコノミーの取組を進めていくことが重要です。

#### リニアエコノミー



#### サーキュラーエコノミー



### 2029（令和11）年の横浜の姿 （循環型都市）

#### ◆取組全体

「**経済成長**」と「**ごみ排出量削減**」の両立  
（デカップリング）の推進

#### ◆個別取組（施策群の指標：抜粋）

・資源化等による食品廃棄物削減量	【現状】	—	→ <b>870t</b>
・企業マッチング等による投入資源削減量	【現状】	—	→ <b>8,000t</b>
・公共建築物のサーキュラー設計数	【現状】	—	→ <b>90件</b>
・循環型サプライチェーンの創出数※	【現状】	—	→ —
・サーキュラーエコノミーに関する事業への※参加人数	【現状】	調査中	→ —

※ 原案では、最新時点の数値に更新

### 2040（令和22）年の横浜の姿 （循環型都市）

【経済】  
の視点

サーキュラーエコノミーが横浜の新たな**成長産業**となっています。

【グローバル】  
の視点

**可視化されたサーキュラリティ指標**のもと、地球環境と調和した持続可能な都市として、**国内外のモデル**となっています。

【市民】  
の視点

「**次世代**も横浜に住んで欲しい」と感じる市民が増加しています。

## 循環型都市移行の必要性

### 環境

- ・ 廃棄物の更なる削減
- ・ 気候変動への対応加速

### 経済

- ・ 地域経済の成長・発展  
(成長分野育成、市内産業活性化)
- ・ 国際的な認知向上・投資促進

## 横浜の強み・特性

### 大規模

“日本最大”の消費地  
最大の基礎自治体

人口  
約**377万人**  
(基礎自治体最大)

建設業、小売、  
教育・学習支援業  
事業所数  
政令市**1位**

循環型都市への  
移行による社会的  
インパクト大

### 多様性

都市環境の縮図  
住宅地、港、農など多彩な環境

建物棟数  
政令市**1位**

外航入港隻数  
日本**1位**

農業産出額  
県内**1位**

地域環境に応じた  
多様なアプローチ  
を試行可能

### 市民意識

ハマッコの市民力  
活発な活動と行政との連携実績

自治会町内会加入率  
約**65%**

NPO法人認証数  
政令市**1位**

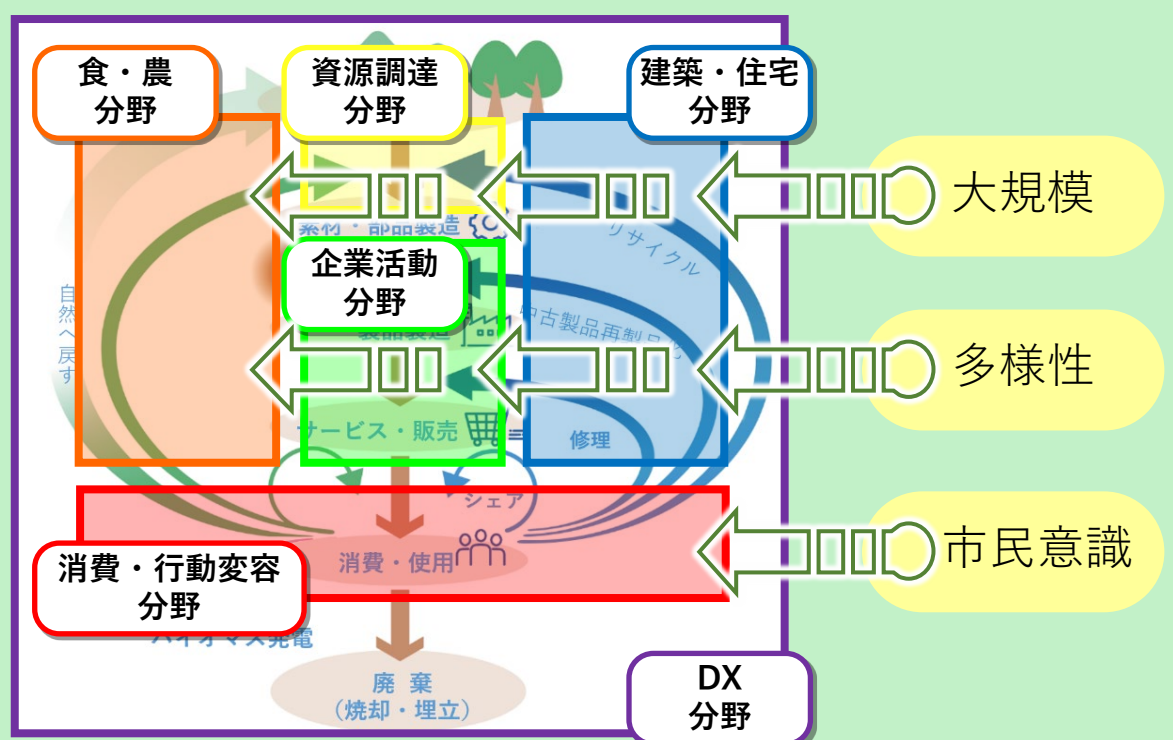
市民・企業・行政  
一体の取組を  
展開可能

## 「横浜らしい」循環型都市へ

活発な都市農業を生かした「**食・農**」、建物棟数など豊富なストックを生かした「**建築・住宅**」を中心に、「**資源調達**」「**企業への成長インセンティブ**」を通じて、生産・流通過程でも循環型への移行を進めます。

また、「**消費・行動変容**」につながる身近な取組を展開すると共に、「**DX**」を推進し、取組効果の可視化や改善につなげます。

さらに、これらの取組を広く**世界へ発信**し、**国際プレゼンスの向上**につなげます。



## 「たべる」サーキュラー

### 横浜の「農」を生かした食の循環

- 家庭から出る食品廃棄物を堆肥化し、地域などで活用します。
- 農作業から出る葉や茎などの残渣の活用や、小売店・飲食店など事業活動から出る食品廃棄物のリサイクルを推進します。
- 下水処理で取り出した「再生リン」入り肥料の活用を進めます。



## 「つくる」サーキュラー

### 社会情勢変化を経済成長のきっかけにつなげる

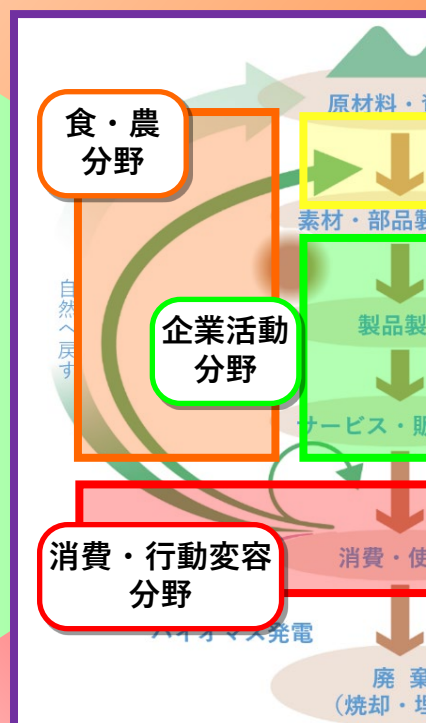
- サーキュラー産業の誘致・集積・エンパワーなど、循環型ビジネスへの重点的なインセンティブの創出を行います。
- 市内企業がサーキュラーエコノミーに対応した経営へ向かうための支援など、「つくる」分野における循環経済の取組をサポートします。



## 「とりくむ」サーキュラー

### 身近な取組から未来を変えていく

- 航空燃料（SAF）に活用するための家庭系廃食油の回収や、不要な衣類を回収し再び繊維として活用する「服to服」など、生活に身近なチャレンジしやすい取組を展開します。
- 市庁舎での率先的な取組や、大規模イベント等を通じた来街者も参加できる取組、こどもや地域によるサーキュラー活動の発信などを通じ、幅広い層に対し、循環型のライフスタイルを促進します。



サーキュラーエコノミーが国際的な潮流となっていく中、これらの



## 「つなぐ」サーキュラー

### 動静脈連携により、再生資源の更なる活用を目指す

- 製品の製造などを行う「動脈産業」と、再資源化などを行う「静脈産業」との動静脈連携により、家庭や事業者から発生する廃棄物の質の高いリサイクルと活用を進めます。
- 「横浜市資源循環推進プラットフォーム」等を通じて、動脈産業と静脈産業のビジネスマッチングや技術開発などを支援します。



## 「くらす」サーキュラー

### 資源の宝庫である「建物」のサーキュラー化

- 公共建築では、既存施設の活用、再利用しやすい設計、廃材の有効活用によって廃棄物を減らす「サーキュラー建築」のモデルを横浜から発信します。
- 日本一のストック量を誇る住宅分野では、リノベーションによる既存ストックの流通・活用を進めます。



## 「みえる」サーキュラー

### 物質循環の流れを「見える化」

- みなとみらい地区において、エリア単位で物質循環の流れを可視化する手法を開発・発信します。
- 可視化されたデータを活用して、地域の資源循環率の向上に寄与する施策を進め、他地区への展開につながる事例を創出していきます。



取組を広く世界へ発信し、アジアを代表する循環型都市へ